

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1223
施設名	MIWA木場公園保育園
施設所在地	東京都江東区木場4-1-65
法人名	みわの会

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

音と季節  
(0歳児クラス)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)  
入園まもなくして音の鳴る玩具や歌をで楽しむこども達の姿が沢山見られたこと、自然豊かな立地により、四季の移り変わりが身近に感じられる環境であることから季節の音(雨の音、虫の鳴き声など)を身近に感じ、楽しんでいけるのではないかと考えテーマとした。

### 2. 活動スケジュール

- ・季節の歌や興味ある歌を歌い一緒に楽しむ。
- ・色々な音に触れ親しむ。(6月11日)
- ・(梅雨期)雨を観察したり触れたり音を感じたりし雨の日を楽しむ。(6月25日)
- ・(夏季)盆踊りの曲に触れたり、曲に合わせリズムをとって楽しむ。(7月24日)
- ・セミの鳴き声など、虫の鳴き声を知らせ一緒に聞き、季節の音を感じ楽しむ。
- ・様々な音に耳を傾け音への興味関心を深める。(9月17日)
- ・オノマトベの絵本と楽器を合わせ音を表現して遊ぶ。(9月18日)
- ・(秋)お散歩先で拾ったどんぐりや葉を持ち帰りペットボトルやビニール袋に入れ振って音を出して遊ぶ。(9月29日、10月1日)
- ・枯れ葉が沢山落ちる場所へ出掛けていき踏み鳴らして遊ぶ。(11月25日、12月4日)
- ・12月クリスマスまで毎日保育の中でミニコンサートを開催しクリスマスソングに合わせて思い思いに楽器を奏で楽しむ。心待ちにする。(12月1日～12月25日)
- ・新春お楽しみ会に参加し、和太鼓などの楽器に触れる。(1月15日)
- ・雨の日、テラスに再びレインドラムを設定しこども達の反応を待つ。(2月25日)

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・お米で作ったマラカスが合ったため、音の違いを楽しめるよう塩やお散歩先で拾った実を入れてマラカスを作る。
- ・雨季の季節、カエルの鳴き声がする ギロの楽器を取り入れる。
- ・雨の日にテラスを開放し近くで雨を近くで感じられるようにした。
- ・雨の日にレインドラムをテラスに出し音を探せるようにした。
- ・虫の音が聞こえる場所に出かけていく。
- ・オノマトベの絵本「ぼんちんぱん」とそれに合わせた楽器、太鼓・トライアングル・タンバリンを準備した。
- ・拾ったどんぐり、葉、ペットボトル、ビニール袋を準備する。
- ・秋の散歩に出かける。
- ・12月入り毎日アドベントカレンダーと一緒に、クリスマスソングを歌う。
- ・新春お祝い会に参加する。(和太鼓に触れる)
- ・職員研修、絵本研修に参加し身近な大人の声で読むことで愛着関係が形成されていくという学びを受け絵本を取り入れた。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

・子ども達が奏でる音に合わせて季節の歌や興味ある歌を歌い一緒に楽しむようにした。

・音を出して遊ぶ様子を見守る。一緒に奏でたりして遊ぶ。

・雨を擬音や仕草で表現し子ども達の興味を誘ったり、一緒に観察したり、子ども達の小さな発見を拾い言葉にし嬉しさを共感した。

・絵本「ぼんちんばん」の音に合わせて楽器の音を出して遊んでみることで興味をもてるようにする。

・枯れ葉が沢山落ちる場所を選びお散歩に出かけていく。見守りの中で子ども達が好きな場所へ散策する。

・毎日同じ時間帯にアドベントカレンダーをめくり、クリスマスソングを歌う。子ども達は自由に表現を楽しむ。

・雨の日に子ども達の前でレインドラムを鳴らし音への興味を誘う。その後テラスの雨粒が落ちる所へとレインドラムを設定し子ども達の反応を見る。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・自分で音を出すこと、音の違いを楽しむ姿など音が鳴ると、保育者を見て笑いかけ発見や楽しい気持ちを共有しようとする姿が見られるようになる。

・楽器に興味を持ち、保育者が鳴らす様子をよく見て、見よう見まねでくり返し試していた。すぐには音が鳴らなくても諦めることなく、何度も保育者の様子確かめながら挑戦する姿が見られた。音が鳴った瞬間には達成感に満ちた表情を見せ、自分で確かめながら試す探求心や、出来るまで挑戦しようとする力を感じた。

・容器の中に入るもので音が鳴る、聞こえづらいなど音の違いに気付くように何度も振っては中の様子を見てまた振ってと、確認するようくり返して遊ぶ姿がみられた。

・水たまりを見つけて指先から手のひら全体で叩いて感触や音を楽しんでいるような姿が見られた。水たまりに雨粒が落ちはじける様子をじっくりと観察していた。

・虫の音に耳を傾けられるよう声を掛けると、耳を澄ましてキョロキョロと辺りを見回し探す様子があった。目を凝らして一点を見る。見えない物の音を感じとり捜しているようであった。

・秋の散歩では枯れ葉を踏むと音が鳴ることに気付き、繰り返し枯れ葉の上を歩きに行く姿が見られた。

・雨が降る様子を自らの気づきでじっと眺める姿が見られていた。少ししてレインドラムを設定すると窓に張り付いて見ていた。A児がレインドラムを指差し保育者へ知らせる。保育者が耳に手を当てて小さな声で「音がするかな？」と声を掛けると隣にいたB児が「ぼっぼ」A児が「ぼぼぼ」と言う。二人の子どもの中で楽しさを共有する様子や取りが成立している様子であった。この二人はクラスの中で月齢が小さい二人であった。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・日々生活を送る中で楽器の音はもちろんの事、様々な場面において【音】に反応を見せる姿が増えていき、感受性が徐々に育まれていったように思う。また、私たち保育者もこども達のささいな気づきや変化に目を向ける力が培われたように感じる。
- ・音が鳴るまで何度も試す姿から、自分で確かめながら関わろうとする探求心や主体性が感じられた。音が鳴った時の嬉しそうな表情からは、発見することへのワクワク感や達成感を味わっていることが伺え、遊びの中で学びを深めていくこどもの力に気付かされた。
- ・枯れ葉を踏む遊びでは自分の行動によって音が生まれる事を発見し、その面白さを感じたことで何日も繰り返し確かめながら、遊びを深めていく力が育っていることが感じられた。
- ・車や飛行機などといった生活の中にあふれた音は大人にとって当たり前の音でも、こども達にとっては新鮮で音を通して周りに目を向け、更なる発見を楽しんでいるようであり、興味や関心の幅が広がっている。
- ・こどもが好きな事や夢中になれる活動は、主体性だけでなく周囲を取り込み働きかけるつながりあうきっかけになることを感じた。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1223
施設名	MIWA木場公園保育園
施設所在地	江東区木場4丁目1番地65
法人名	社会福祉法人みわの会

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然  
(1歳児クラス)

<テーマの設定理由>

・木場公園の豊かな自然が身近にあり、探索活動を通して触れる機会が多く子どもたちが興味関心を持っていること。

### 2. 活動スケジュール

- ・くわの実を拾ってみよう(探索、発見、感触、実で紙に塗るなど)5/15,16
- ・すけるおりがみで遊んでみよう(観察、発見、色の認識、五感を使う)6/12
- ・水遊びって何だろう(水遊び関連の絵本を見る、シャワーの水の感触、発見、観察)7/3
- ・どんぐりひろい(探索、感触、どんぐりの歌、色の認識、発見、見立て遊び、拾ったどんぐりで遊ぶ)9/2,3,5,8,11,12,16,
- ・広場でおやつを食べよう(五感、食への興味関心を深める、)9/22
- ・虫探し(ありの観察、探索、発見、歌)9/25
- ・どんぐりケーキを作ろう(拾ってきたどんぐりで作る、見立て遊び、)9/26
- ・どんぐりマラカスを作ろう(拾ってきたどんぐりで作る、見立て遊び、五感)10/14
- ・昆虫原っぱにいこう(探索、発見、五感)11/12,14
- ・落ち葉拾いで色んな色を探そう(探索、発見、色、音、感触)11/27
- ・絵本と同じを探そう(発見、探索、五感)2/2

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

道具・材料

・ペットボトル(散歩バック用)・肩から掛けるひも(五歳に三つ編みで結ってもらう)・マラカス用の容器・粘土・ダンボール(ケーキ用)・子どもが拾ったどんぐり・どんぐりや自然に関連した絵本

環境

- ・お散歩バックを持って散歩に行く
- ・毎日少しずつどんぐりケーキを作る。部屋の入口の棚に置くことで子どもや保護者が目に見えるようにし、活動の経過が見えたり送迎時の話題になるようにした。
- ・自然に関連した絵本を部屋に置き季節や興味で入れ替え、身近に親しむことができるようにした。
- ・絵本研修を行い、活動に活かした。

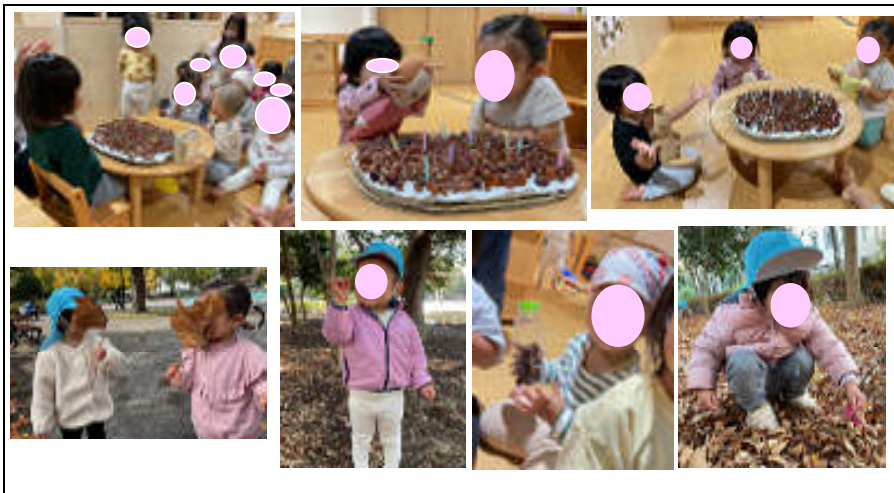
#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ・木場公園へ散歩に行き、探索や発見を楽しむ
- ・自然に関する絵本に触れてから散歩へ行く。
- ・どんぐりマラカスを作り、歌を歌ったり鳴らして遊ぶ
- ・どんぐりケーキを作る、ケーキを使って遊ぶ

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・木場公園でどんぐりや木の実など発見したり、探索して自分のバックに沢山集めていた。一つ一つの形や色の違いを発見したり、地面に並べたり、割れたどんぐりから「誰か(動物)が食べたのかもしれないなど想像を膨らませたりしていた。じっくり集めるこや保育士、お友達のを借りるこもいた。集めたどんぐりを出しては入れるの動きを楽しむこもいた。ペットボトルの中を覗きこみ万華鏡の様に動かして、中の景色を楽しむこもいた。じっくりと楽しんでいる姿にはあえて声を掛けずにその子が没入できるよう配慮した。どんぐりを入れるくり返しの動作で指先の力加減が自然と身に付き細やかな動きの発達に繋がった。ペットボトルバックにした事で入れる度にポトンと音が鳴り、どんぐりの量によって振った時の音の高さの違いに気付くこもいて「これはどんな音かな」などと投げかけるとそれぞれの感じた音の表現をしていて「そうだね、〇〇だね」と共感することでこどもが感じたことに、身近な大人と気持ちを共感し合える心地よさを感じていた。どんぐりケーキでは、ダンボールの上にクリームに見立てた紙粘土の上に子ども達がどんぐりを乗せていった。どんぐりころころを歌ったり、人形を抱っこして親子になりきり「ふーってするのよ」と吹かせお祝いしたり、お誕生日会を再現したごっこ遊びにも繋がった。マラカス作りでは森の音楽家の曲に合わせて口ずさんだり踊ったりする遊びがうまれたので、親子で遊ぼう会にも取り入れた。どんぐりの絵本を部屋に置くと「こうえんにあったよ」「ひろったのと同じ」と嬉しそうに発見した時の事を思い出したり、楽しかった気持ちが経験となっているのだなと感じた。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・活動を通して子どもたちの気づきや発見がどんどん豊かになっていった。  
その子だけの視点や葛藤しながらも自分なりの工夫をしようとする姿、遊びに夢中になる姿など自分たちが捉えていた以外のその子の新たな一面にも気付くことができた。
- ・絵本研修を受けたことで必要性を感じ意図的に絵本を置いたり、子どもの視界に環境設定する事で子どもは大人が考えるよりも多くの事を感じ取り頭や心の中でイメージを広げていた。見立て遊びやなりきって遊ぶ姿、自分で何でもできると自分自身で感じて堂々と行動する姿に、年齢の発達段階で子どもの育ちを決めつけたり、みてはならないなと実感した。
- ・日常生活の中に歌があり積極的に保育士も口ずさむことで、子ども達がイメージした時に自然と関連付けたり、歌を口ずさむ姿へと繋がっていった。何が子どものきっかけになるか想像できない発想力に日々驚かされた。
- ・振り返りの中での気づきを皆で共有することで、部屋の環境設定のあたらなアイデアが生まれたりもっと面白いことを考えてみようという意欲や視点に繋がった。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1223
施設名	MIWA木場公園保育園
施設所在地	江東区木場4丁目1番65号
法人名	社会福祉法人みわの会

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物（虫、熱帯魚）  
（2歳児クラス）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）  
テラスや散歩先で、テントウムシやダンゴムシ、アリの存在に気付き発見を楽しむ姿が多く見られていたので、生き物への関心を深めていけるように4月当初は虫をテーマに設定した。また、暑さの厳しい時期には、散歩先で生き物に触れることが難しい為、熱帯魚の水槽を設置し熱帯魚もテーマに組み込んだ。

### 2. 活動スケジュール

【虫】	
6月～	散歩先でもミミズや蝶など虫探しを楽しむ。
6月17日	登園時にカブトムシが成虫になっている姿を発見すると触ってみたりエサをあげたりと世話することを楽しんだ。
8月12日	虫を身近に感じられるよう保育室に虫のコーナーを設ける。 飼育している虫を製作で作り装飾を自分たちで作りに上げていった。
8月14日	虫取り網をもって出掛け、散歩先で虫探しを楽しんだ。
10月	好きな虫になりきって踊ったりサーキットなどで体を動かす活動を取り入れてなりきり遊びを楽しんだ。
【熱帯魚】	
8月21日	熱帯魚の水槽を設置する。
9月～	毎日水槽に触れる時間を設け、親しみを育てるようにする。
12月17日、2月18日	水槽の近くに、クレヨンや紙を設置し水槽に注目しながら表現を楽しむようにする。
2月1日～2月28日	水槽に自由にこどもの呟きや気づきを記入できる掲示を設置し、園全体で共有できるようにする。また、保護者会で該当クラスの保護者に協力をお願いする。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
【虫】
・大小様々な虫かごを用意し、虫取り網も牛乳パックとネットでこどもが持ちやすいように作った。
・虫のコーナーを作り、いつでも見れる環境を作った。また、コーナーの中に図鑑を置いておくことで気になった虫を自分で探し興味を深める姿が見られた。
・様々な虫の制作活動を行った。
【熱帯魚】
・水槽を玄関に設置する。
・水槽内の魚の図鑑を水槽の前に設置する。写真も一緒に掲示。
・クレヨンや紙を水槽の近くに設置する。
・水槽近くに共有するための掲示と付箋を用意する。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

進級して暫くは、自分が一番近くで虫を見たいという思いから虫かごを取り合ったり倒してしまったりという姿が見られていた。しかし、虫のコーナーを設置すると保育士がいなくても好きな時に見れるという安心感から友だち同士で「叩かないだよ」「揺らさないんだよ」と伝え合いながら虫の成長を見守る姿が見られるようになった。

様々な虫を育てている過程で、虫ごとに食べる物や体の大きさなどの違いに気が付くようになり、その度に図鑑を開いて虫の特徴を保育士や友だちと図鑑と照らし合わせて探究する姿が見られた。

その活動を行っていく中で、様々な図鑑に興味を持ち、魚の図鑑を見たことから熱帯魚にも興味を示すようになっていった。

水槽を設置すると、すぐに興味を示し、設置して二か月ほど経過すると水槽の生き物にも詳しくなっていた。いつもいる場所にいない事に気付いたり、好きな魚が出来る子もいた。水槽の前でお絵描き出来る活動を行った。12月の活動では、魚の色を「ニモは赤と白だね」と見た色や砂利や水を表現したりと、見えている物を描こうとする姿が見られた。2月に同じ活動を行うと、「この魚は色が変わるから怖い」→「怖い色はこれかな?」と話しながらかいたり、自分の描いた絵を水槽の生き物に見せようとするなど、水槽の生き物により親しみをもつ姿が見られた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・自分のイメージや気づきを言葉に表し、こども同士で伝え合う姿が見られた。
- ・こども達の自発的な興味を見守り、気づきや呟きに共感していった。
- ・気になった事が出来ても保育士がすぐ答えを導くのではなく、色々なもので試して友だちと一緒に探求することを大切に過ごした。
- ・水槽の生き物たちに親しみを持てるように魚や貝の気持ちを代弁したり、なぜ?と考えられる言葉掛けを行っていった。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・進級時から、こども達の虫への興味関心が高く、何をしているのか、何を食べるのか興味を持ち積極的に観察することを楽しんでいた。
- ・図鑑で見ることで新たな発見に気付きもっと知ろうとする姿が見られた。
- ・様々な虫と関わることで「どのように関われば虫も嫌な気持ちにならないか」ということを考え関わり方が変化していった。
- ・毎日熱帯魚と触れ合う事で、水槽の生き物たちが自分たちの仲間のように捉えていることがわかった。
- ・子ども一人ひとりが熱帯魚にたいして様々なイメージを持っていた。友だちの持っているイメージに気が付くと、自分のイメージを伝え、違いを楽しんだり、共感している所に成長を感じた。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1223
施設名	MIWA木場公園保育園
施設所在地	江東区木場4-1-65
法人名	社会福祉法人みわの会

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然（身近な植物と生き物）  
（3歳児クラス）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

四季折々の自然が豊かな木場公園内にあり、散歩先で季節に応じて色々な生き物(虫や花)に出会いながら過ごしている。昨年からクラスでカタツムリを飼育したり、散歩先で見つけた虫や花を見て姿、形に魅力を感じたり、遊びに取り入れたり、集めたりしながら関心が深まっている姿があるため、探求心をより深められるよう設定した。

### 2. 活動スケジュール

4月～カタツムリ飼育。散歩先で植物を探索、虫捕り(ダンゴムシ、蟻、蝶々、セミ、カメムシ、バッタ等)を楽しむ。

6月～朝顔、キュウリ栽培。色水作り

7月～どじょう、チェリーシュリンプ飼育・海の魚の観察

10月～透かしほおずき作り

1月～ヒヤシンス水栽培、チュウリップ栽培。

3月マグロの解体ショー

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

【虫探し】・虫や植物に出会える散歩先に行ったり探求時間をゆったり取るようにする。

・虫捕り網6本程、虫かご2個、観察ケース。

・季節に応じて植物や生き物が載っている絵本や図鑑。

【植物の栽培、観察】テラスの保育室から見える窓際に設置した。

・朝顔の種、キュウリの苗。

・プランター、土、添え木、ジョウロ3個。

・色水遊びに発展できるようビニール袋、透明カップ、コップ、ペットボトル、朝顔の花、葉物野菜等

・ほおずき、筒状透明容器、歯ブラシ

・ヒヤシンス球根3色、水栽培容器3セット、日陰用の箱

チュウリップ球根、プランター、土。

【水の生き物】水槽を設置し徐々に環境を整える。

・水槽、砂利、水草、飼育道具、チェリーシュリンプ、どじょう、餌。

まぐろの解体ショーに向けて職人（保護者）と打ち合わせを行う。

・魚の図鑑、実物大のまぐろの写真

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

【虫探し】前年度から飼育しているカタツムリを継続して観察したり、散歩先で蝶々を追いかけたり、バッタやカメムシなどを掴まえたりして観察や生態への興味関心を深めた。

【植物の栽培・観察】季節に応じて旬のものがあるように、植物も移り変わっていくことに気付けるよう花や野菜等を栽培した。アサガオ開花後は、花を摘んで色水遊びを楽しみ、葉物野菜や人参でも試せるようにしたり、収穫したてのキュウリを実食し味わたりして視覚だけではなく、嗅覚や味覚を通じて心が動く体験が出来るようにした。

種と苗と球根、プランターと水栽培、浸透させるなど栽培、観察方法も多様に体験できるようにした。(アサガオ、きゅうり、透かしほおずき、ヒヤシンス、ちゅうりっぷ)

【水の生き物】水の生き物への興味の広がりや、休息、癒しの場になればと願いを込めコーナーを作った。子どもたちの反応を見ながら、水槽の環境を整え、翌週からチェリーシュリンプとドジョウの飼育を始めた。すぐにチェリーシュリンプ産卵、稚魚の成長を見ることができた。また、「親子で遊ぶ会」ではエビやどじょうの表現やゲームを楽しんだ。

玄関には海の魚がいる水槽を導入し、色や形などの違いに気付いたりする中で、魚への興味関心が深まっており、マグロの解体ショーを行った。

##### (活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

活動の中で、どう変化するのは知らせずに子どもがワクワク感を体験したり不思議を感じられるように見守りながら共感を大切に關わった。

【虫探し】虫取りを楽しむ中で虫の掴まえ方を試行錯誤しながら身に付けていたり、さりげなく用意しておいた図鑑や絵本を見たりして親しみを持っていた。カメムシが歩く様子を観察した後に、子ども達が足を広げてトンネルを作ったりカブラで道や家を表現して一緒に遊ぶなど親しみを持っていたが、玩具の様に扱ってしまう姿もあり、命があることを知れるような関わりをした。

【植物の栽培、観察】様々な植物や野菜の育ちを「どうなっているかな?」と毎日楽しみにしていた。朝顔や野菜を使って色水遊びをした際には、ペットボトルや透明のコップに入れてまごに展開したり、給食に出てくる野菜を見て「これでジュースを作たらいいんじゃない?」と子ども達から声が上がったりした。透かしほおずきを見て「はだかんぼうになっちゃった!」と言い、ヒヤシンスの根っこが伸びていく様子を目にして「ドレスみたいになった」と言うなど子どもならではの表現をしていた。沢山の植物を身近に感じられたことで、散歩先でも「これはなんだろう?」と興味をもち気付いたことを伝えあっていた。

【水の生き物】どじょうやチェリーシュリンプの世話を通じて「ごはんあげたい」「お昼だから電気消すね。おやすみ」と声を掛ける姿があるなど愛着が育っていた。友だちとトラブルになった時や気分が浮かない時には見に行き心を落ち着かせる姿も見られた。玄関には海の魚やエビがいるので、見て名前を覚えたり鮮やかな色を喜んでた。

魚への関心が深まる中でマグロの解体ショーが出来たので、普段食べている魚がどう調理されるのかを知り、命をいただくことを体感した様子だった。

また、保育士ではない職人(保護者)に魚の泳ぎ方やマグロの速度、大きさ、種類などを教えてもらい、夢中になって見たり質問したりして、図鑑では出来ない体験をすることが出来た。給食時には塩焼きまで提供したので、切った時とマグロの色が変わっていることに気付いた様子だった。味の感じ方には個人差があり「おいしい」「すっぱい」「苦い」などと伝えあっていた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

・保育者も一緒に楽しみながら関わり、子どもたちの気付きに寄り添いながら活動を広げたり、じっくりと探求したり出来るように保障したことで、子どもたちがのびのびと気づきを伝えたり、夢中になって自身の興味を深めたり姿があった。改めて、継続して観察することや、夢中になっている事象を見極めて援助することの大切さに気付けた。初めから教えるのではなく、子どもたちが感じたり考えたり、試したりすることを大切にすることで、子どもならではの柔軟な発想や心の動きに注目することができ、子どもの面白さや見守る姿勢が養われたよう感じる。

また、導入にユーモアを取り入れたり、さりげなく環境を整えたりした事で、日々の生活の中でワクワクしながら観察したり楽しみにしたりして過ごせた。保育者の声掛けや準備を工夫することで興味関心が深まると、親しみや愛着をよりもつようになったように感じている。「なんだろう?」「どうなるのかな?」の探求心の根っこが育っている。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1223
施設名	MIWA木場公園保育園
施設所在地	〒135-0042東京都江東区木場4丁目1-65
法人名	社会福祉法人みわの会

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

色  
(4歳児クラス)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

製作が好きな子が多く、実際に見たものや感じたことを絵で表現することを好んでいた。  
カラーモンスターの本をきっかけに、感情を色で表現する子もいた。  
公園内にある保育園のため、木々や植物の変化を色や形で表現することを楽しめると思った。  
色での表現方法は様々だと感じ、子どもたちと色についてじっくり深めてみたいと思った為。

## 2. 活動スケジュール

春：クラスに木を設置する。

- ・散歩に行くなかで春の木や植物の特徴を捉えていた。帰園後クラスの木や見たものを表現することを楽しむ(4/21 24名60分)
- ・桑の実やヤマモモの実を見つけ潰して布を染めた。染めた直後の色と時間が経った時の色比べ違いに気付く。(6/30 23名90分)

夏：みずあそびの中で、色水遊びを楽しむ。色の混ざり合いを見たり、絵の具の水分量の違いを感じたりする。

- ・食紅と絵の具の色の見え方の違いに気付く。
- ・お花紙遊び。動詞で遊ぶ。破る。仰ぐ。まとめる。貼る。など (7/28 23名 90分)
- ・お花紙遊び。溶かして乾かす。(8/25 22名 90分)

秋：散歩に行き、秋の木・植物の変化に気付く。(9/16 16名 90分)

- ・クラスの木も秋仕様にしたいと、試行錯誤しながら色作りや表現を楽しむ。
- ・秋散歩。トンボの出産に立ち合い興味を深めていた。トンボの羽の体、目の色を観察することを楽しむ。(10/27 22名 60分)
- ・落ち葉遊び。(11/25 22名 60分)

冬：散歩に行き、木の変化を見る。クリスマスの木がどうなっているか見て感じたものを表現し、楽しむ。

- ・クレヨン作り。クレヨンの特性を知る。(12/22 22名 90分)
- ・カラーセロハン遊び、氷、光と影 (1/26 22名 60分)
- ・春探し。河津桜を見に行こう (2/20 20名 60分)

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・色の混ざり合いや素材の違いを見て比べられるよう様々な色の素材を用意した。

(絵の具・食紅・お花紙・クレヨン・色画用紙・カラーセロハン・カラービニール袋・白紙・筆・ペットボトル・ダンボール)

- ・安全に配慮しながらクレヨンの溶ける過程が見れるようにしたり、お花紙の特性ひらひら舞う様子や伸び伸びお花紙に触れられるよう広いホールで行った。

(ホットプレート・缶・油跳ね防止網・ネット)

- ・必要に応じて使えるよう常にOPPテープ・セロハンテープ・のり・ボンド・はさみ・廃材の用意をした。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

【スカイの木】スカイ組の保育室内に大きな木を設置した。幹の部分もダンボールや包装紙に色を塗って表現した。公園で感じた四季をクラス内の木でも表現し楽しんだ。春は桜、夏は青葉、秋は紅葉、冬はクリスマスツリーと色や飾りだけでなく、形の特徴を捉えて表現していた。

【色遊び】絵の具や食紅で色の混ざり合いを楽しんだ。想像した色を作るのに試行錯誤したり、新しい色と出会い発見があったり、出来た色の透明度、光に当てた様子の違いを感じていた。また、絵の具は水の量によってなめらかさにも変化があることに気づき、用途によって水分量を調節していた。（ジュース屋さん：水多め 紙に描く時：水少なめ）

【お花紙】破く、投げる、仰ぐなどお花紙の柔らかさを感じた後、水に溶かしてみた。ペットボトルに入れ、振ったり時間が経つにつれて水に溶けて絵の具のように色が混ざる様子を観察した。置いておくと下にお花紙が沈み霧がかかると分離した。溶けたお花紙を油跳ね防止網やネットを張った入れ物に流し込み、水気を切って乾燥させると再び固る姿を楽しんだ。乾くとお花紙の色が薄くなったり、色が混ざり合ったまま固まり、「いちごクッキーができた」「太陽だ」と、似ている物に例えていた。強く持つとバリバリ割れることを知ると、持ち方や触り方も丁寧になっていった。

【感情と色】カラーモンスターでは、怒り＝赤、悲しみ＝青などと表現されていたが、暑い時も赤、寒い時には青と表現している子がいた。周りの子も「そうそう」と納得したようで、感情や感じた事も色で表現した。眠いとき＝紫、キレイなものを見たとき＝黄色、優しくしてもらったとき＝ピンク など

【クレヨン作り】馴染みのあるクレヨン、小さくなったクレヨンを集めてクレヨンを溶かしてみた。熱いと溶け、冷えると再び固まるというクレヨンの特性を知った。溶けたクレヨンは絵の具のように色が混ざり合い新しい色ができた。新しくできた色を見て「ハワイの海の色」「クリスマスの色」と名付けていた。大きな型に入れたら大きなクレヨンとなり、様々な大きさに割って新しいクレヨンとして絵を描いて楽しんでいる。また、絵の具と同じように水と混ぜる子がいたが、時間をかけ自分の手で混ぜることで“全然まざらなかつた”と気付いていた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・活動中は子どもの気付きに耳を傾け、感じたこと、気付いたことを拾っていた。

・なるべく子どもが第一で気付けるよう、焦らず見守る関わりをした。場合によってはヒントや手助けをしながら。

【スカイの木】夏にカブトムシやセミなどに興味を示した子どもたちと昆虫を作った。いざ飾るときに「どこに住んでるのかな～」と呟くと迷わず保育室内の木を指差し、桜を取り夏の昆虫の木へと変化させていた。これをきっかけに自然の木と保育室の木を比較し変化・表現する姿があった。紅葉では赤い葉っぱを表現するのに赤いカラーポリ袋を利用した。電球の光に照らされると「火事みたい」と思った表現にならず、撤去することに。黄色とオレンジのポリ袋に赤い画用紙で葉っぱを付け「できた」と完成を喜んでいて。

【絵の具】はじめは、色の足し算などで新しい色との出会いを楽しみ、発見を喜んでいて段々作りたい色を自分で作れるようになり、表現の楽しさを感じているようだった。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子どもたちは色を通して様々な発見や表現を楽しみながら、友だちと気持ちや考えを共有する経験を重ねていった。保育者としても、子ども一人ひとりの気付きや興味を大切に、それらを広げられるような環境作りや関わり方を意識していくことの大切さを改めて学ぶ機会となった。今後も日々の遊びの中で出た疑問や発見を大切に、さらに興味を深めていけるような保育を心掛けていきたい。
- ・保育者同士で活動を振り返り共有することで、様々な視点から子どもたちの姿に気付くことが出来た。また、意見を出し合う中で新たな気付きや活動のアイデアが生まれ、保育の幅を広げていく事に繋がると感じた。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1223
施設名	MIWA木場公園保育園
施設所在地	江東区木場4丁目1-65
法人名	社会福祉法人みわの会

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然  
(5歳児クラス)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・公園内にある施設という特色を活かし、木場公園の自然に触れる中で四季を感じたり、気づきや疑問に感じたこと、やってみたいことを友達や保育士と共に探求していく。
- ・専門的な講師によるネイチャリングという活動の中で自然探索を行い、自然に対して多様な視点で関わり、発見を楽しむ。
- ・夏祭りのプラネタリウムを通し光や影にも興味が出てきたので興味関心を持ち探求できるようにしていく。去年に引き続き楽器にも興味があるので自然物を使った楽器遊びの活動も取り入れていく。

### 2. 活動スケジュール

- ・散歩を通して木場公園を探索し、つつじの蜜などを吸う自然探索 (21名90分)
- ・戸外で花の香りを感じたり、木の実に触れる、葉の形の違いに気付くなどの自然探索 (24名90分)
- ・ヤマモモの実を見つけジュース作り (25名90分)
- ・お花紙遊び (24名90分)
- ・透明カップに油性ペンで色を塗り懐中電灯でロールカーテンに映し出す遊び (17名40分)  
→同様 (10名30分)
- ・自然光を使った光と影遊び (20名50分)
- ・散歩を通して木場公園にはどんなもの、香り、音があるか自然探索 (11名40分/11名40分)
- ・昆虫、葉っぱ、木の実等の自然探索 (20名90分)
- ・キンモクセイの匂いをかいだりヤマボウシの実など味わう、葉っぱを使った制作 (23名90分)
- ・秋の自然探し (24名50分)
- ・焚火、木炭作り (22名90分)
- ・楽器遊び (10名30分/12名30分)
- ・自然物を使って光と影遊び (11名50分/12名50分)
- ・絵の具作り (22名90分)
- ・万華鏡づくり (23名90分)
- ・紙粘土づくり (名90分)

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・自然物を集められるように袋を用意したり、持って帰ってきたもので遊ぶことが出来るよう環境を整えた。
- ・ロールカーテンをアトリエに設置する。光と影の遊びが出来るように懐中電灯、透明カップ、油性ペン、自然物などの準備。木琴、ウッドブロック、タンバリンなどの自然物で出来た楽器。
- ・お花紙、OPPテープ、のり、ボンド、廃材等の準備。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

・光と影の活動で透明カップに色を塗ったり、戸外で見つけた葉っぱやセミの抜け殻などの自然物を暗くした部屋で懐中電灯でロールカーテンに映して影遊びを楽しんだ。また楽器遊びでもオーケストラの映像を映しながら楽器に触れることでオーケストラの一員になりながら楽しんだ。

・公園で色づいた葉っぱを拾い種類を分けて並べたり丸机に葉っぱを広げOPPテープを貼り飾りを作った。

・焚火体験では自分でマッチを擦る、炎を見て五感で感じた。

・粉+水+糊で絵の具が出来ると知り、焚火体験で出来た木炭をヤスリで粉状にし水と糊を混ぜて絵の具を作った。

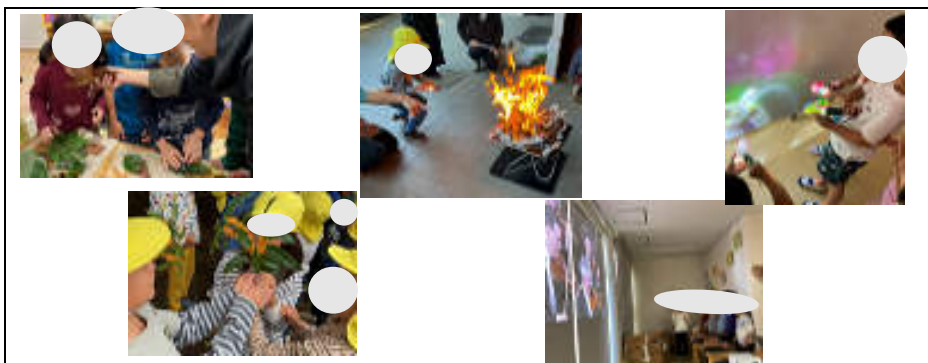
##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・懐中電灯で何気なく自然物を照らし他の子のライトも重なると影が増えることに気づき「どうしてだと思おう？」と問うと「懐中電灯を増やすと映る影の個数が変わるんじゃない？」と気が付いたり、色を塗ったカップを重ねて照らすと色が変わる事に驚き色々試す姿があった。暗闇に照らされることで「映画館みたいだね」とごっこ遊びにも発展していった。

・自分達で拾った枝やどんぐりの果軸を入れて焚火をし、一人一人マッチを擦り火をつけた。燃えていく様子を見ながら慎重に火をつけたり、出来ると嬉しそうなお顔が見られた。缶に枝などを入れて木炭を作る際は缶から煙が出ていることに気づき「煙が出てるよ！」と友達に共有する姿があった。枝が燃えて白くなっていたり、煙がたくさん出ている部分に気付くなど発見が多かった。匂い、木のはぜる音、炎の暖かさ、熱さ、煙など五感を使い様々に感じていた。

・お花紙遊びでは息やうちわで飛ばす、破くなどの遊びをしてからシート作りをしたことで「こっちの方向だと破りやすい」等気づく姿があった。雨が降っていたのでシートを濡らす時に3階テラスに出て傘のように頭の上に持ち濡らしていった。その後、お花紙を敷いて糊スプレーを吹きかけシートが出来ると「きれいだね」と友達同士感動したような声も聞かれた。出来上がったシートをアトリエの天井に飾り、光遊びの時に懐中電灯で照らすと影が出て「地球みたい」「面白い」と遊びが広がっていた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

公園の中にある立地を活かし自然には沢山触れてきていましたが、視点を変えたり、自然物を用いて遊ぶ方法を模索したり、環境を整えることで、こどもたちの探求心が深まっていくのだと学ぶことができた。特に焚火はなかなか体験が出来ない事なので安全に気を付けながら出来て良かったと思う。少人数での活動も意識したことでこども達が生き生きと活動に向かい、発見を楽しみ、気づきを共有したり協力し合う姿が見られるようになってきたと感じる。アトリエにロールカーテンが付いたことで光の遊びやオーケストラの映像を映してオーケストラの中に入り込む楽器遊び(オーケストラごっこ)等の活動が出来たこともこども達の探求心を広げた活動の一つになったように思う。興味関心の示し方に個人差があるので、発見したことや感じたことの共有の仕方など、工夫をしていく事が課題だと感じたので今後の活動に活かしていきたいと思う。